

大阪国際児童文学振興財団の現在 その3 国際児童文学館資料を使ったさまざまな活動

財団の現状をご紹介する3回目です。2回目では、大阪府立中央図書館国際児童文学館（以下、国際児童文学館）の約83万点の貴重な児童文学・児童文化に関わる資料を直接的に使った活動を中心に紹介しました。今回は、資料を元に広く「子どもの本」の文化の振興を行っている当財団の事業を紹介します。

1. 国際交流

子どもの本には多くの翻訳書があり、日本に居ながらにして海外の様子やものの見方を知ることができる「世界の窓」の役割を果たしています。当財団では、設立当初から子どもの本に関わる専門的な機関としては国際的な視野が不可欠だと考え、国際交流事業を行ってきました。

その一つとして、企業（現在3社）からの援助を受け、毎年海外から子どもの本の作家を招へいし、大人向け講演会や子ども向けワークショップを行っています。その中には今、世界で注目されているオーストラリアの絵本作家ショーン・タンをはじめ、アジア、アフリカの作家もいます。

また、一般財団法人 金蘭会、大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会と共催して世界の児童文学研究に貢献した人に贈る「国際グリム賞」を創設し、選考と表彰式・記念講演会を隔年で開催しています。今年度は、18回目の選考を進めています。

海外の児童文学専門機関との資料交換や英文レポートの送付も行い、理事・総括専門員の土居安子は、IBBY（国際児童図書評議会）の日本支部であるJBBYからの推薦で国際アンデルセン賞の選考委員（2017年-2020年）などの仕事もしています。

2. 子どもの本の文化に親しむ

子どもの本の文化は、書き手がいなければ成立しません。「日産 童話と絵本のグランプリ」も1984年から実施している事業で、今年度第37回を迎えます。日産自動車株式会社のメセナ事業では、最も長い事業になっているとのこと。歴代大賞受賞者の中から佐藤まどかさん、さえぐさひろこさんなどの児童文学作家、みやざきひろかずさん、みやこしあきこさんなどの絵本作家が活躍されています。童話と絵本を合わせて毎回三千作近い応募をいただいております。その一人一人が子どものことや子どもの本のことを思って創作され、応募されていること自体が意義深く、子どもの本の振興につながっていると考えています。

3. 子どもの本の渡し手・受け手との交流

子どもの本の文化の振興を考える上で、本と子ども読者の媒介者への支援は欠かせません。当財団には「おはなしポップ」「人形劇サークルぱれっと」というボランティアグループがあり、府立中央図書館や児童養護施設等でのおはなし会、貸切モノレールでのおはなし会のあと人形劇を鑑賞する「おはなしモノレール」などを開催しています。また、司書、学校司書、ボランティア、保護者に向けた講座・講演会の講師派遣も行っています。大阪府子ども読書活動推進計画の立案や遂行にも求めに応じて参画しています。

どの事業をとっても、子どもの本とその関連書がなければ成立しませんし、専門的な知識や考えが必要です。財団では、国際児童文学館の資料を元に研究を重ね、事業を実施しています。

2020年9月1日

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 理事・総括専門員 土居 安子

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
